

2022年度 高校2年 前期第二中間テスト講評

国語

現代文（担当：黒川）

文系の平均点も理系の平均点も、およそ67点でそれほど差はありませんでした。アップリフト部分が基礎点化していて、授業内容の部分でどれだけ上積みできたかで差がついたようです。

さてその授業内容ですが、「山月記」は第一中間テストが行われた時点でちょうど終わったあたりが範囲でしたので、だいぶ時間がたっていたせいかなりできがよくなりませんでした。ただ、ここは必ず出すよとテスト前に言っていた部分さえも得点できていないのは、やはり勉強不足と言わざるを得ません。

「永訣の朝」は概ね良好なでき具合でした。妹の死を作品として昇華させた賢治の心中とその人生について、改めて考えてみてください。

次回前期末テストの中心となるのは「こころ」です。夏休みを挟むので、今回のように記憶が薄れることのないよう、しっかり取り組んでください。

古典（担当：渡辺）

2年生古典の平均点は56.7点。古文は絶対敬語・係助詞・副助詞・終助詞など、漢文は部分否定の句法・講読を中心に出题しました。授業中に説明したことに関してパーフェクトな生徒が5人ほどいて感心しました。

自学自習帳からは助動詞「なり」の識別で、接続だけでは判断不能のものを出题しました。接続で判断するのはいつでも大切ですが、レベルの高い問題ではそれ以上の要素が必要となってきます。文脈判断はもちろん、古典常識の知識などですね。そろそろそういうものも身につけていきましょう。

前回赤点だった生徒で今回30点以上アップし60点を上回る得点をした人がいました。たいへんな努力をしたことと思います。立派です。皆さんもがんばってください。

数学（担当：渡邊（崇）・十文字・亀山）

<ABC組 内進生>

図形と方程式とデータの分析を範囲として出题しました。2のデータの分析は共通テストを意識し、マーク形式でかつやや計算量も多い時間のかかる問題を出题しましたが、平均点はAB組（理系）で48.9点、C組（文系）で47.2点と第1中間よりは10点近く上がりました。試験対策の時間を多く取れたこともあり、前回と比べればよく頑張ってくれたのかと思います。

しかし、4（1）が完答できていなかった人が多かったのは教授者として残念でなりません。授業で扱った問題であり、解法が決まっている問題の一つです。今後様々なところで出题される可能性もある、受験対策として極めて重要な内容ですから、他の問題同様しっかり復習してください。

<D組>（ABC組 内進生と同内容）

図形と方程式とデータの分析を範囲として出题しました。2のデータの分析は共通テストを意識し、マーク形式でかつやや計算量も多い時間のかかる問題を出题しましたが、平均点は理系で58.6点、文系で48.4点でした。

まず、4（1）が完答できていなかった人が多かったのは残念でなりません。授業で扱った問題であり、解法が決まっている問題の一つです。今後様々なところで出题される可能性もある、受験対策として極めて重要な内容ですから、他の問題同様しっかり復習してください。また、2〔2〕は最近の共通テストの傾向にあった問題であり、計算量、文章量ともに多く大変だとは思いますが、本番でも聞かれる可能性の高い内容ですから、十分に気を付けておいてください。

<ABC組 高入生>

不等式の証明と複素数を範囲として出题しました。平均点はAB組（理系）で49.4点、C組（文系）で52.3点でした。

まず、3の不等式の証明で、不等式のまま変形している答案がありました。等式にしろ不等式にしろ、証明すべき式そのものを変形することは原則としてできません。今後も続くことですから十分注意しておいてください。また、

3 (2) では相加 \geq 相乗平均を使うまでは良いのですが、それぞれの () で使っている答案がありました。等号成立条件を考えれば、不成立であることは分かるはずですが、一方でよくやる間違いでもあります。これを機会に今一度確認してください。

さらに、基礎事項が欠如している答案も多かったです。1 は計算がやや大変であるかもしれませんが、それでも出来てほしい問題ばかりです。よく復習しておきましょう。

英語

全クラス「コミュニケーション英語」70点、「英語表現」30点で、合計100点満点で出題し、母集団はA・B・C組の内進生、A・B・C組の高入生、D組という3つの集団で集計します。

コミュニケーション英語 (担当: 細谷・品田・濱塚)

<ABC組 内進生> (濱塚)

今回はテスト範囲を限定したこともあり、前回より得点が取れていた。やればできるので次回も計画的に勉強して高得点をとってください。

<ABC組 高入生> (品田)

試験範囲はLesson3, 4の2つの課で、前回と同じ分量でした。出題形式も同様に、文章の内容に関して問う問題、熟語や単語・派生語の問題、教科書の”Structure”で扱っている文法事項の理解を問う問題など、すべて授業中に説明したものばかりでした。それにもかかわらず、平均点が70点満点で31点というのはどういうことでしょうか。最高点の67点は立派です。ところがそれに続く層がいなく、30点未満が19人もいます。それほど必死に勉強しなくてもそれなりの点数が取れたのは中学までの話です。「やればできる。」というのは「やらないからできない。」ということです。高校生活も半分近くが過ぎようとしています。少しずつでも意識を変えて取り組むよう頑張ってください。

<D組> (細谷)

長文読解問題から70点、英語表現から30点の配点で出題しました。読解は4題の長文が試験範囲でしたが、テキストと同じ問題は高得点でしたが、応用問題の単語・熟語や内容一致文の空欄補充はかなりの語彙力を必要とするものを出題したので学力差が現れました。英語表現の問題は選択問題や空欄補充問題は良好でしたが、英作文はきちんと正しい英文が書けている答案と、文法・構文理解が不十分で綴り字のミスがあったりして様々な箇所が減点され得点にならない答案とに二分されていました。長文は設問の箇所だけでなく、重要構文・語句に注意して丁寧に英文を読む習慣を身につけることを勧めます。

英語表現 (担当: 細谷・宇佐見・濱塚)

<ABC組 内進生> (濱塚)

前回よりできていたがもう少し努力が必要だと思う。次回は早めのテスト対策が必要である。

<ABC組 高入生> (宇佐見)

出題範囲が広がったことから、平均点は30点中17.4点となり、前回よりもやや点数が下がりました。前回同様に教科書の例題からの出題となりましたが、授業に取り組む姿勢、復習の度合いがそのまま点数に現れる結果となりました。定期テストは授業の確認をする位置づけです。真摯に授業に向き合う姿勢をもち、また志望する大学に一步步近づけるよう、さらなる努力を期待しています。

英会話 (担当: ナタリー)

理系の平均点は65.57点、文系は63.74点でした。

ほとんどの学生はリスニングで本当にうまくいきました。リスニングスキルが向上していることをうれしく思います。書き込みにはいくつかのよくある間違いがありました:

クラスでの文章の語数制限について話しました。それはまた、試験前の説明と問題用紙にも書かれていました。高校2年生では、より長く洗練された文章の書き方を練習する必要があります。一部の学生は、短縮形または複合語を1つの単語として数えたかもしれませんが、そうではありません。たとえば、「I'm」、「grandmother」などです。

多くの学生が「tourists - 観光客」と「tourism - 観光」を混同していました。

「Foreigner」という言葉の使用に注意してください。あなたが他の国を訪問しているなら、あなたは「foreigner」になります。「I want to go to America to talk to foreigners」と言うのはおかしいです。この場合、「外国人」はあなたです。

演習英語 (担当: 細谷)

テキストから 80 点、応用問題から 20 点の配点で出題しました。選択問題は復習すれば容易に得点できましたが、並べ替えの英作文や和文英訳は明暗が分かれませんでした。日頃から正しい英文を暗記したり、動詞の使い方に注意しながら語彙を鍛える必要があります。応用問題は「明治大学」(文法問題)、早稲田大(正誤問題)の問題でしたが、英検 2 級レベルの語彙力が必須です。正誤問題は日常的にやっている英作文の演習でよく間違える項目に注意していれば気づけるものを中心でした。難関私立大の英語のレベルが実感できたはずなので、毎日の英語学習に語彙の増強の演習を取り入れることを勧めます。

理科

物理 (担当: 若林)

力積と運動量について掘り下げて出題しました。衝突問題が中心ではありましたが、中には大問 4 のように、運動量や力積そのものは全く計算しないものの、考察の起点が運動量と運動量である問題も含めました。いつものように約 20 満点の大問を 5 つ出題し、各大問ごとに異なる主題・目標を設定してあります。大問ごとに得点率を分析することで、自分の理解の偏りや達成度を大まかに掴むことができます。さて、その得点率ですが、平均値は大問 1 から順に 81.6%, 60.0%, 64.5%, 44.7%, 43.5% となっています。用語や定義、そして物理量間の関係のような基本事項はすべて大問 1 にまとめました。これに関しては、完璧とは言えませんが、ひとまずの及第点には達していると評価できそうです。これに対して、大問 4 および 5 がこのひと月の間に学習した知識を使いこなせるようになったかどうかを確認するための問題でした。きちんと解き直し、あるいは授業冊子の例題に立ち返って理解を深めてください。

今回で高 2 の力学のすべてを終えました。今後はこの力学の理論を熱や波動現象へと適用していきます。週に 2 コマのみの科目ですが、学ぶべき単元はたくさんあります。がんばりましょう。

化学 (担当: 村岡)

化学基礎から「物質量」、上位化学から「三態」・「気体」を出題しました。平均点は 47.7 点と大苦戦、前期第一中間試験から 25.6 点もダウンです。自身の結果を分析していますか？

物質量の分野では計算問題がメインでしたが正誤問題も出題しており、その正答率の低さから、「計算はなんとなくできるが、正確な理解はできていない」ということがハッキリしました。例えば、「原子の相対質量とは?」、「原子量とは?」、「物質量とは?」、「モル濃度とは?」に対して、その定義をきちんと説明できますか? 知識を「点」で済ませず、「流れ」を意識してストーリーを理解すること。計算はその次のステップです。

三態と気体の分野では、授業内でのやりとりでの正答率(高い!)とは大きく異なる内容でした。それは間違いなく「準備の甘さ」が原因です。「これくらいやっておけば大丈夫」と甘くとらえることで演習量が不足し、試験本番では手も足も出なかったという状況が推察されます。とにかく、「自力で解ける」まで繰り返すこと。

前期末試験では、化学基礎から「酸塩基」、上位化学から「気体の応用問題」・「溶液の性質」になります。次も計算メイン(※高 2 の間はずっと計算メインの分野)ですので、とにかく問題集にしっかりと取り組んでください。

生物基礎 (担当: 小野・松林)

<理系> (小野)

今回は、遺伝子の発現、細胞分裂、体内環境から出題しました。基本的な問題を多く出題しましたが、平均点は 57.4 点と、あまり良い結果ではありませんでした。次の前期末試験までは生物基礎の易しい問題になりますが、後期からは一気に難しい内容になりますので、次の試験で点数を稼げるようしっかり準備してください。

<文系> (松林)

今回の試験範囲は「遺伝情報と DNA」から「体内環境としての体液」までが試験範囲で、平均点は 67.4 点でした。基本の問題はよくできていますが、応用問題になると正答率が下がります。問題集の問題を解いて、応用力をつけてから試験に臨みましょう。次の試験は計算問題が多く出題されることでしょう。授業でも計算問題は扱いますが、基

本だけでは対応できないところも出てきますので、問題集でしっかりと応用力をつけて下さい。

地理・歴史

日本史（担当：小川・鈴木）

今回の試験は、前回の試験よりも平均点が大幅に下がり、理系は48.1点、文系は42.9点となりました。試験範囲は大化改新から奈良時代全部で、比較的理解が難しい分野でありました。問題は大学入試問題をもとに適宜修正して出題しましたが、いわゆる難関大学の問題は少なく、出題元の大学名を見て、驚いた生徒も多かったと思います。

前回の試験の結果が良く、今回の試験に向けての対応が不十分であった生徒も多かったのではないかと思います。次の実力試験と定期試験では、今回の試験対策を見直し、基本的事項の定着と問題演習の徹底、教科書とノートでの流れの最終確認という学習のローテーションを確立し、どのような範囲の試験でも、十分な準備を行ない、確実に得点できる態勢を整えてください。

次は、荘園体制や武家政権の登場、地頭制度の発達など、中学校と比べて難しい分野が続きます。毎回の授業の練習問題、試験前に配布される練習問題の内容を確実に理解し、試験に臨めるよう、学習に取り組む姿勢そのものの見直しを求めます。

地理（担当：木部・両角）

平均点は71点です。それほど低い平均点とは思えませんが、もう少し高い平均点でもよかったかなとも思います。採点して感じることは、簡単にまちがってしまう個所が多いことです。簡単に間違うとは、本当に基礎的に知識を間違ひ、少々応用的な問題に対しては熱心に考えて答えている感があったということです。これは、よいことでもあり、残念なことでもあります。特に、大問6の「扇状地」や「自然堤防」の記述にはよく考えて解答している様子が見えましたが、大問7の地図の問題は、勉強したかしたか現れる問題かなと思います。大問7のような基礎的知識は、授業の中で取り上げられたことです。その意味では、授業で基礎知識を積み上げてゆくことが何よりも大切かなと思います。次は実力テストです。夏休みに学習して成果を高めていきましょう。